

付録3 新型コロナウイルス感染拡大の状況における大学の対応について（沖縄県立看護大学）

1. 新型コロナウイルス感染症に対応して、教育課程の実施、授業の方法等について、学生の学習の質を維持するために行った取組の概要を確認したい。

大学回答欄
運営(前学期) COVID-19の感染状況に応じて一定期間の休校ならびに対面と遠隔授業の実施。実習はすべて学内実習、演習は科目によって学内演習とオンラインによる遠隔演習、試験は対面禁止で、ZOOMによるリアル試験と課題提出
運営(後学期) 時期別に分散登校を実施
授業(前学期) : 遠隔授業開始にあたっての説明会の開催: 学生と教員
試験(前学期) : 前学期の期末試験前に遠隔での試験心得など各教員で作成し、学生に十分な説明を行った。
試験(前学期) : 遠隔授業のアンケート結果の説明と改善方法の掲示: 学生と教員
実習(後学期) : 学生に対して実習開始の感染予防ガイドを作成し周知を行った。
実習(後学期) : 4年次の統合実習に関する遠隔での実施方法について、教員間で情報共有を行った。
遠隔授業方法(講義) : ZOOMを全学的に購入し、ZOOMを活用したオンライン授業を実施した。その他に課題の提出やオンデマンドの授業で、Office365のteamsなどを活用した。遠隔での授業評価で、Formsを活用した出席や学生の感想・疑問などをタイムリーに把握してフィードバックや学習改善に活かすことができた。
遠隔授業方法(実習) : 臨地実習が不可能な場合、学内実習や遠隔実習を行った。学内実習方法は、臨地実習に近い事例を作成し、シミュレーション教育、模擬患者、紙上事例、ビデオ、実習場所からの看護職者との双方向による事例検討など、様々な手法を活用しながら学内実習を行った。遠隔実習では、すべての事例で教員が患者役を担い、遠隔で参加する学生が面接、ケア計画、ケア内容など口頭で伝えながら模擬患者に対応し、実際の臨地実習に近い形の状況を設定し遠隔実習を展開した。

2. 新型コロナウイルス感染症に対応して、学生の学習及び生活の支援について行った取組の概要を確認したい。

大学回答欄

学生への教育

- ・ 沖縄県立看護大学新型コロナウイルス感染症拡大予防ガイドライン
- ・ 新型コロナウイルス感染防止策グループワーク（2～4年次）
- ・ 講義開始にあたっての感染対策について

環境整備

- ・ 附属図書館の利用のお知らせ（2020年9月23日より）

学生支援基金の設立

(1) 授業の遠隔化やon line化に伴う、パソコンや通信のトラブルに関して相談・助言を行うチームを設置して対応している。

(2) 経済的理由などで自宅にWi-fiを整備できない学生（4人）に対してWi-fiの貸与を行っている。また、その他の理由で自宅で遠隔受講できない学生（数人）に対して、学内で遠隔授業を受講できる場所を提供している

(3) 現在、学年別に時期をずらして分散登校を行っているが、今年度前半の授業の完全遠隔化を実施していた時期においては、各学年の各学生グループ担当の教員が週に一度程度Zoomなどを使って学生と連絡を取り、近況の確認を行っていた。

(4) 遠隔授業の実施に伴い、一部の科目では紙媒体の講義資料を各学生の自宅に送付している。

(5) 経済状況や遠隔受講に必要な通信環境についてアンケート調査を行った。